

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19530787
研究課題名（和文） 世代間の技能伝承を中心に、地域の教育力をものづくり教育に定着させる題材の開発
研究課題名（英文） Educational material developed manufacturing power of the local education, mainly the traditional skills between generations
研究代表者
千葉大学・教育学部・教授
藤澤 英昭（FUJISAWA HIDEAKI）
研究者番号：90173418

研究代表者の専門分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：)世代間 地域 ものづくり 技能伝承 題材開発

1. 研究計画の概要

義務教育機関としての小・中学校だけではなく、地域社会を含めて総合的な教育活動を提案する。生活を支える材料と加工にかかわる技能の伝承を世代間の交流として捕らえて、題材化する試みである。

2. 研究の進捗状況

たんに過去において文献で紹介されたものではなく、実際の地場産業として現在も研究対象として実際に体験できるものづくりの場を様々な観点から調べた。その結果最も組織的な情報を集約しているのは通商産業省との連携のもとで展開されている「伝統的工芸品センター」である。ここでは産業として成り立っていて、その生産に従事する人が卓越した伝統技能を保持していると認められた人に称号を与えるとともに産品にセンターのマークを付けることを認めて生産品の付加価値をバックアップしている。さらに同センターは学校教育の現場にこれらの職人を派遣する事業を展開している。児童の反応は良いし、産業を紹介し製品の良さを普及することには十分貢献しているのだが、児童の側からは問題意識が希薄であるがゆえに異文化体験という感想が多い。さらに職人の世界の技能伝承と世代間を超えた教育一般に言及していく可能性のあるものづくりには若干距離があるようにも感じられた。そこで社会教育として地域の中の特別な取り組みに情報収集の網を広げた。この視点からは実に多くの報告が得られたが、あまり拡散させることなく、実際の街に息づく刃物屋さんの鍛冶屋さんや刃物文化をつなぐ試み、銅鏡という古代を連想させる鏡の製作を通して文化史への興味や金属の性質と加工方法の会得などを視野におさめた研究にかかわって作

業が進んでいる。

4年間の継続研究であるが情報収集から教材づくりへとおおむね順調に3年次まで研究を進めてきている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

研究の進行に伴い当初に予定からさらに調べる必要が発生して、扱っているものづくりの現場が拡大傾向にあったが、数本の教材用のビデオがテスト版として作成され、一方で技能の獲得場面の研究も進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

教育委員会と代表的な協力機関に配布して問題点をさらに探り、新しい研究の視点を見つけていく。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 鈴木隆司 「平成20年度学習指導要領改訂について—ものづくり・技術教育という視点から」『技術教育研究』67号 P32-P36 2008 査読有
- ② 大河内信夫 「日本における揚水技術と藤原式揚水機の展開」第三回中国伝統技術研究国際検討会 論文集 P29-P34 2008 査読無
- ③ 藤澤英昭 「伝統・文化・ものづくり・造形教育」『美育文化』59-7巻 P13-P18 査読無 招待依頼原稿 2007

[学会発表] (計 5 件)

- ① 大河内信夫 「日本における中国揚水技術の受容と藤原式揚水機の展開」第 3 回中国伝統技術研究国際会議 於中国無錫 2008. 11. 03
- ② 藤澤英昭 「日本の美術教科書」世界美術教育者会議 於大阪 2008. 8. 6
- ③ 鈴木隆司 「生活科教育法の取り組み」第 17 回日本生活科・総合学習学会 於山形 2008. 06. 28

[図書] (計 2 件)

- ① 藤澤英昭 「総合的な学習の実践事例と解説-図画工作」第一法規出版 セクション担当 10 ページ分 2008
- ② 藤澤英昭 「図画工作・美術教育研究 第三版」教育出版 編集・著述 1-20 2010